



第87号

December 2021

編集・発行

社会福祉法人
沖縄県社会福祉事業団〒903-0804 那覇市首里石嶺町4丁目373番地1
TEL.098-884-3173(代) FAX.098-882-5688✉ o.fukusi@okinawa-j.jp
🌐 http://www.okinawa-j.jp/

にしのもり保育園

園長 池田 哲子



やぎもにしのもりの仲間

本園には、保育園が開園する前から一足早く入園したやぎたちがいました。子ども達の入園を待っていたやぎたちは、哺乳瓶でミルクを飲ませ、下痢をしたり、元気がない時は病院へ連れていき、人間の子育てと同じように様々な育児の大変さを乗り越えました。

生き物を保育園で飼うことは、それなりの覚悟が必要です。エサはどうするのか、休みの日はだれが面倒を見るのか、休調が悪くなつたらどうするのか、子どもにがをさせたらなど、様々な課題があります。「でもなぜ、やぎを飼うのですか」という疑問を抱かれる方もいると思います。それは、子ども達がやぎと関わっている姿を見れば一目瞭然です。やぎに語りかける子、やぎに餌をあげる姿、泣いていた子がやぎのところに行くと泣き止む姿など、そこには保育園の掲げる「心揺さぶられる環境で保育する」子どもの感性を育くむ上で大きな役割を果たしていると思います。また、生きているものには、「生」と「死」という現実にもぶつかります。大事に育てている自分たちの仲間のやぎの死や命の誕生に立ち会ふこともできました。

「命の大切さ」を子どもなりに感じる貴重な経験でした。

最後にもう一度「どうしてやぎを飼つてるの」「それは、飼つてみなければわからないよ」

みんなはだしでかけまわる

ちよろちよる小川も気持ちいい

めえーめえーぴぴじゃー仲良しだ
きようもどきどきわくわくだ

南の島の愉快な愉快な保育園
にしのもりにしのもり保育園

（保育園の園歌より）
※ぴぴじやー（石垣島の方言でやぎのこと）

虐待防止・権利擁護研修

8月13日（金）、管理職および全職種を対象とした「権利擁護・虐待防止研修」をオンラインにて開催いたしました。植草学園大学副学長であります野澤和弘氏を講師として、利用者の尊厳について理解を深めるご講話いただきました。受講者の声を紹介します。



救護施設 いしみね救護園
生活指導員

伊集
貴子

今回の研修は、コロナ禍における開催ということで、オンラインでの受講となりました。初めてのオンライン研修で不安もありましたが、対面開催とそんな色なく受講でき、むしろ受講者の顔がスクリーンで確認できるなど、新鮮で楽しく参加できました。



野澤和弘氏による講話

新任課長あいさつ

特別養護・養護老人専門
八重山厚生園

生活支援課長
石垣
孝 いしがき たかし



特別養護・養護老人専用
八重山厚生園

管理課長
新城佳一



障害者支援施設
北嶺学園

管理課長
平川 亞紀



この度の人事異動により生活支援課長の辞令を受けました石垣と申します。今年度は介護報酬改定に始まり、コロナ対応などドタバタの新年度のスタートとなりました。コロナ対応ではこれまで面会やショートステイの受入れ、また養護利用者のデイサービス利用など、制限や解除を繰り返すという難しい対応が続いています。一日も早い収束が訪れる事を願つてやみません。さて、特養においては多職種が連携して利用者支援を行っています。現在いろいろな制限のある社会状況にあります。ですが、全職員がひとつのがんばりで楽しく働ける職場作りと利用者にとっても安心して穏やかに過ごせる施設であり続けることができるよう取り組んでいきたいと思います。

この度、令和3年4月1日付けで看護課長に就任しました。

十年前に療育園に入職し看護師として2病棟に配属され、初めて重症心身障がい児（者）の看護に従事し、療育、医療的ケアを学び、その後、1病棟でも従事してまいりました。

世間では、一昨年より新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るい、我が沖縄県でも多大な感染状況となりました。幸いにも療育園の利用者にはコロナウイルス発症者は出でておらず、園長、事務長をはじめ全職員で感染対策に取り組んできた結果だと思います。

今年度より、看護課は二課長制になり、これま

設施入所児害障型療育園沖繩

看護課長
仲間義弘



野澤和弘氏による講話

今月3月に石垣市役所を退職し、4月1日より
八重山厚生園の管理課長として就任いたしました
新城と申します。

これまで市での31年間の在職期間、福祉総務、
障がい福祉、児童福祉と約17年間は福祉行政に携
わってきましたが、残念ながら高齢者福祉の業務
への配属はありませんでした。この度、縁あつて
八重山厚生園に勤めることとなりました。不慣れ
な施設現場では、園長はじめ職員の協力を得なが
ら日々業務に取組んでいるところです。

今後とも、利用者の笑顔が溢れ寄り添つた福祉
サービスの充実と地域貢献、信頼される施設を目
指し努めてまいりたいと思います。

北嶺学園管理課長へ就任しました平川です。昨年までは、学園内にあります相談支援事業所ほくれいと相談支援専門員をしていました。初めての管理職で、業務の把握や理解が追いついていない状況の中、園長をはじめ、先輩課長や周りの職員にご指導や助言、協力していただきながらなんとか業務をこなしているところです。皆様のお力添えに感謝します。学園のサービス提供方針である「利用者の人権を尊重し、個々の特性を理解した気つきのある支援」「元気な挨拶と笑顔を心がけ、みんなが明るく楽しい施設を目指す」をもとに取り組み、北嶺学園の利用者様が安心して楽しく生活することができるよう、また職員も安心して働くことができ、方針に基づき主体的に考え方行動し、協力しあえる職場作りができるよう頑張つていています。宜しくお願ひいたします。

専門職としての取り組み



具志川厚生園 養護老人ホーム
看護師 いさ



障害者支援施設 都屋の里
看護師 なかむら そのみ



障害者支援施設 都屋の里
介護員 やましろ しげよし



特別養護老人ホーム
名護厚生園
介護員 はちみね

2019年度末にコロナ感染症が発症し、わずか数ヶ月で世界的に広がり、沖縄県内でも緊急事態宣言が発令され、私達、そして施設入所利用者様の生活が大きく変わりました。

養護利用者様は複雑な家庭環境、生活状況の中で、心に傷を持ち入所されます。が、コロナ感染は利用者様へ更に大きな不安を与えることとなりました。利用者様との日常会話の中で、コロナについて説明を繰り返し理解を求めてきましたが、緊急事態宣言中により外出自粛の状況が続くことでストレスや不満が大きくなりました。コロナ禍で外出の自粛、面会制限など利用者様の楽しみとなる機会が奪われ、当たり前にできていたことができなくなり、できることへの創意工夫が求められました。生活相談員や支援員と連携し、職員対応で嗜好品の購入、ドライブなど、少しでも不安や不満の緩和に繋がるよう取り組みました。

施設入所故に、制限された生活を余儀なくされていることを理解し、改めて『利用者様一人一人の考えに対する支援、その意思を尊重しつつ、地域移行に向けて生活できるよう支援が大切である』と初心にかえることができました。

都屋の里は、私を含め看護師3名です。全員が顔を揃えることは殆どなく、一人勤務の時もあります。現在看護師が先頭に立って、感染予防策や業務改善などに取り組んでいるということはありません。

例えば感染予防で言えば、感染予防計画は園長が中心になって作り、手袋や備品の調達は管理課長、換気や消毒、環境整備は介護員が行います。看護師は計画時の助言であったり、ガウンテクニックの演習などを行ったりします。チームの一員としての役割があるということです。

また、都屋の里でも利用者の高齢化が進み、医療ケア・視点が求められています。最近では、誤嚥性肺炎予防のためます。最近では、誤嚥性肺炎予防のため吸引が必要になった方や、尿カテーテルに吸引が必要になった方や、尿カテーテルに移行した利用者がいます。その他、日々の健康管理を行っています。

都屋の里では同性同介護業務を基本としてきましたが、男性職員の欠員状態が続き、募集等行つても解消せず維持する事が難しく10月から男女業務統一化に向けて会議や試行期間等を設け取り組んでいます。その中で、支援等のサービスの維持や業務上での配慮を有する事や問題、負担等を会議等で話し合いながら全職員一丸となつて頑張っています。

今後も都屋の里のチームの一員として、看護の知識・スキルを高め、専門性が発揮できるよう努力していきます。

今後、より良い支援が出来る様に業務の改善に努めていきたいと思います。

現在入所されている利用者様は、自宅での生活が困難で施設に入所されている方がほとんどです。以前、ショートステイを利用されていた利用者様が、自宅に帰宅され施設に戻られた際「やっぱりここがいいな」と笑顔で話してくれたことがあります。とても嬉しく思いました。利用者様のADL低下防止、維持を考えながら日常生活しやすい環境づくり、安心・安全・笑顔で生活できるよう対応しています。また利用者様の意思を尊重し、苦情・要望等を出来るだけ迅速に対応し寄り添う事を心掛けて支援しています。

他職種との連携については、新型コロナウイルスの影響で、家族との面会・外出等の制限もあり、家族に会えない寂しさから情緒不安定になられる利用者様が増え、介護員だけでは対応しきれない状況もあり、ケアマネや生活相談員にも協力してもらい利用者様の精神面の緩和に努めています。

現在介護員の人員不足により、日によっては業務がうまく回らない時がある状況です。そのようなときは、介護課長やケアマネ、看護師やOTなど、それぞれの業務がある中、施設職員全体で協力し利用者様の対応ができ、とても助かっています。

今後も利用者様の安心・安全を考慮し、他職種と情報を共有しながら連携を図り支援していきたいと思います。

新型コロナ感染症対策と訪問介護



八重山厚生園訪問介護事業所
サービス提供責任者

砥板 といた 整子 せいこ

サービス提供の主な内容は入浴や生活援助になりますが、石垣島でも新型コロナウイルスが感染拡大し、三密を避ける、手洗いうがい、マスク着用の必須などに伴い、支援方法に影響が出ました。そこで、石垣市主催の新型コロナウイルス感染症に関する研修に参加して、訪問時の感染対策として八重山病院感染管理認定看護師からコロナ感染症の講話と、長袖エプロン着用の仕方として着用より脱ぐときが重要、フェイスシールド以外は再使用しない事など研修内容を他のヘルパーさん達にも周知を図り、研修での対策を徹底しコロナ感染症の疑いがあつた時でも慌てず利用者様からの要請があれば訪問するつもりでいました。

そんなある日の事、独居の男性宅を訪問した時、足の痛みを訴え病院に連れて行くと体温が三九度五分ありました。救急車の要請、玄関まで歩行介助し救急車への搬送まで行つたヘルパーさんから報告を受け、コロナ禍の中病名も分からず、接触介助もあり上司と相談の上、コロナ感染症の疑いもある事からヘルパーさんは自宅待機をお願いしました。夕方にコロナではなかつたとの報告を受け安堵した事もあります。

何時どこでだれが遭遇するかも分からぬコロナ感染症対策は万全かと言わると、不安もあります。そのため訪問で



平成26年12月1日あけぼの相談支援事業所として宮古厚生園敷地内に開所して7年目を迎えようとしています。現在2名の職員で障がい福祉サービスを利用必要とする利用者さんに対して日々支援を行っています。また、同事業所には宮古厚生園の居宅介護支援事業所と併設しており介護と障がいの垣根を越え様々な利用者さんのニーズに対してサービス内容や支援方法について一緒に考え、助言をもらいながら利用者支援に努めています。

相談支援事業所の主な業務は、障がいのある方やその家族からの様々な不安や悩みに生活に関する相談に耳を傾け、本人、家族の思いをくみ取り障がい児者福祉サービスを申請する際に必要となる「サービス等利用計画（案）」を作成し市町村の窓口に提出します。支給が決定した後には、障がい福祉サービス事業者などの連絡調整やサービスの利用調整を行うとともに、支給決定を受けている児者の生活状況や福祉サービスの利用状況などの確認（モニタリング）を行い、必要に応じて関係機関を集めた担当

は新型コロナウイルス感染予防対策として利用者様宅の入室前にフェイスシールド、マスク、手袋着用を行うことを利用者の皆様へ文章で配布することにしました。そのことを知った一人の利用者様からは、「家の外でそのようなことをされ

ては周囲の住民より自分が感染者と疑いの目を向けられる可能性があるので家の中で着用して欲しい」との強い要望があり、話し合いの結果、玄関で着用することにしました。利用者の気持ちを大事にすることによって意見の相違があつてもその都度話し合いを持ちお互い理解することを大切にしながら、サービスを継続しています。

また、利用者様家族からは、「コロナ感染拡大時でもできる範囲の支援して欲しい」と依頼があります。換気や感染対策を行い家族の希望通りの支援が出来るようヘルパー全員で支援していくたいと思っています。

相談支援事業所
あけぼの

下地 栄市
しもじ えいいち

相談支援事業所の取り組み

者会議を実施し、支給決定の更新、見直しなどに関する調整を行っています。

相談支援事業所
あけぼの

下地 栄市
しもじ えいいち

支援事業所としても活動しており、福祉サービスを必要としている利用者の相談に応じ①必要な情報の提供や助言等を行い、障がい福祉サービスの利用に向けての支援②虐待の防止及び早期発見の為の支援③定期的に自宅を訪問し生活状況や体調等を確認しながらフードバンクにて食料品をいただき提供しています。また、福祉サービスを利用してない方への行政手続きや病院の定期受診の付き添い、年金事務所への同行、専門機関の紹介（権利擁護や成年後見人等）や福祉サービスの紹介等を行っています。その他にも、定期的に宮古島市基幹相談との連絡会議に参加し地域資源の活用や地域の課題、相談員のスキルアップの為の研修等の企画・実施を行っています。

これからも、介護・看護・医療・保健・基幹相談などの関係機関とも連携し障がい者の思いに寄り添いながら、入所施設・グループホーム、地域で暮らす障がいの方達が安心した生活が送れるように支援し宮古島市の障がい福祉の向上に努めています。

施設だより



特別養護・養護老人専科
八重山厚生園
生活相談員

敬老の日を、利用者の皆さまが元気な様子で迎えられたことを嬉しく思います。

夏には、八重山の旧盆伝統行事事である『アンガマ』を実施した事で、旧盆の季節の訪れを感じていただけた様です。

最後に少しだけ。『人生会議』という言葉があります。自分で食事が摂れない姿。動かなくなつた身体。予想以上に身体の衰えは早いものです。会えない時間が多いため、家族の要望に真摯に向き合い、叶えてあげるではなく、叶える事が福祉者として必要なスキルだと考えます。最後には、この施設で良かつたと言われる様取り組む所存でございます。



特別養護・養護老人ホーム
八重山厚生病院
生活相談員

利用者を通して見えるもの



昨年からコロナウイルス感染症対策で生活の制限を強いられ、毎年参加し

YU-マルシェで商売繁盛
♪コロナで棚から牡丹餅(

救護施設
管理課長
よみたん救護園
みやざと 宮里 美奈子



多くのある中で、何ができるのかを考え、少しでも利用できるのを考
え、少しだけでも利潤が得られる活動を提案する。それを実現するための手
段として、まずは業者の方々に、どういった形で協力していただけるかを
お聞きします。



兒童養護施設 漢水學園

アクアリウムを通じた情操教育



兒童養護施設
心理士
漲水學園

アクアリウムを通じた情操教育

児童養護施設 漢水学園
心理士

砂川 博利

アクアリウムは、情操教育として福祉・介護・教育・保育の場面で、セラピーとして幅広く取り入れられている。情操教育とは、児童の感情や情緒を安定させ、創造性や感受性を高め、個性的な心を育てる教育の事を指す。

漢水学園入口には水槽があり、児童たちと鑑賞し、生活のさりげない一部として楽しんでいる。ただ楽しむだけではなく、魚の健康状態をチェックしながらエサやりを行い、水槽掃除した時にはレイアウトを考えながら、心の中の内在する問題（葛藤）を言語的イメージに置き換え、水槽内の魚と対話する事で自己フィードバックやリラクゼーションにつながる。

「魚は何匹かな?」「○○な魚がいるよ」

という自然な会話が発達上必要であり不可欠な要素です。教えるだけではなく、感じる事から健やかな成長を願い、今後も楽しく児童と取り組んでいきたいと思います。

でした地域の行事も取りやめとなりました。例年、陶芸や農耕、創作活動で作った作品を読谷祭りで展示販売してましたが取り止めとなり、創作意欲の低下を招きかねない状況の中、1本の電話で状況が好転しました。読谷村でお店を開いている雑貨屋さん（作家さん）たちのハンドメイド作品を展示販売できる場所を探しています。スペースを貸してもらえませんか。これは利用者の創作・販売意欲をかき立て、イベントになるかもしれない、主催側と細かな打ち合わせと感染対策を講じ初めて開催したのが前年の10月でした。それから今年3月・11月とYUIマルシェinよみたん救護園を開催しています。開催する毎に来場者は増えています。今年3月の来場者数は約960人でした。キッチンカーも開催する度に増え、外出支援がままたらない利用者にとっては、ピザやかき氷、タピオカカジュースなど飲食もでき一石二鳥。コロナ禍だからこそ出会えたイベント、企画を持ちかけてくれたOrangeの桑江さん・SABOの上間さんありがとうございました。

よみたん救護園の行事の一環として今後もYUIマルシェに参加協力していきます。開催はコロナ状況を見ながらで不定期ですが年に2回ほど企画しておりますので、ハンドメイドショップのインスタなどチェックしてください。みなさんのご来場をお待ちしております。

YUIMARCHEで商売繁盛

当園では、10月14日から、予約制で15分間、面談室での面会を開始しました。約半年ぶりのご家族との対面には、涙と笑顔が見られました。しかし、今後、またどのような状況になりますのか分かっていません。約半年ぶりの面会になりますが、これまでの出来事も多くのあります。今後、またどのような状況になりますか分かっていません。約半年ぶりの面会になりますが、これまでの出来事も多くのあります。今後、またどのような状況になりますか分かっていません。



設施所入兒障害型醫療

コロナ禍での療育活動



設施所入兒障害型醫療



新役員あいさつ

特別養護・養護老人ホーム
具志川厚生園
園長

知花 進
ちばな すすむ



平成18年度の民営化以降、初めて理事に就任することになりました。

平成29年の改正社会福祉法により、これまでの理事・評議員の役割や任期も大きく変わり責任の重さを痛感し、自分に出来ることから他理事や厚生園園長と協力し取組んでいきます。

介護分野においては地域包括ケアの取組みにより、3年毎の報酬改定もサービスの質の向上が評価されるシステムに変化しており、法人・施設の対応課題も見えており、取組を強化する必要があります。

これまでの課題に対する取り組みで介護人材の確保や、人材育成要綱に基づくリーダー層の育成、各職員個々のスキルアップを進めて定着させ、働きやすさ・働き甲斐のある施設（法人）を作り上げ、地域から信頼され選ばれる施設を作り上げることで経営の安定化、新規事業への取組みを強化していくかと思います。

また、新たな課題への対応として、新型コロナウイルス感染症対策を各施設の利用者状況に応じ基本的な対策を行なが、施設サービス継続に向けて職員一丸となつて「命をまもる」取組みを強化していく情報を共有し、発信していくかと思います。

人材の確保については法人として大きな課題である、2025年問題や少子高齢化により介護現場で直接ケアにあたる人材確保が困難な状況が続いている、これまで有資格者の採用の在り方・介護補助業務での職員採用等様々な取組を行ってきましたが、サービス提供に必要な人材の確保が困難な状況が続いており、今後は八重山厚生園で取り組んでいる、新規高校卒業者の確保に向けて、法人事務局と各理事が連携し取組み強化して行きたいと考えております。

さまざまな課題が山積している状況ではありますが、事業団がこれまで培ってきたノウハウを最大限生かせるよう各理事・職員一体となって微力ながら取組んでいく所存です。今後とも指導・ご鞭撻をお願い申し上げ挨拶とします。

特別養護・養護老人ホーム
宮古厚生園
園長
平良 吉昭
たいら よしあき



この度、令和3年6月の理事会で理事に選任されました。
微力非才の身で理事の職責を担うことが出来るか不安で躊躇しましたが、以前、先輩職員より仕事の構えとして「事業団を愛する気持ちは誰にも負けないという、心意気が大事だ！」との言葉に鼓舞され、理事の職務に誠心誠意、尽力いたす所存でございます。

平成2年4月に障害者支援施設あけぼの学園に生活兼作業指導員として採用され、これまで児童養護施設・老人福祉施設等で児童指導員、出納員として経験を積み、現在は宮古厚生園で施設長として勤務しています。事業団職員として31年間の培った経験が理事会運営に活かされればベストと考えています。

新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るい、依然として終息の兆しが見えず、各施設がコロナ感染症対策に真摯に取り組む中、令和3年度より「第4期経営計画（令和3年度～令和5年度）」がスタートしました。計画では前経営計画で課題となつた項目を「サービスの質、経営基盤、地域貢献」の視点で課題解決に取り組む内容となっています。

法人の経営が適正かつスマートに遂行出来るよう、皆様とともに力を合わせ、法人のモットーである「明るく、楽しく、夢のある事業団」らしく、利用者様本位のサービスの実現へ向けて取り組んで参りますので、皆様のご指導よろしくお願い申し上げます。



役員及び評議員名簿

(令和3年6月24日現在)

役員

理事長 金城 敏彦

常務理事 石川 俊雄

理事 小橋川 務

監事 花城 裕康
知花 進

監事 平良 吉昭

監事 宮城 光宏

評議員

評議員

比嘉 成和	上地 武昭
嘉陽 孝治	喜明 喜治
西里 喜仁	豊仁 喜明
上原 一史	新垣 貞美
喜瀬 貞美	喜瀬 新垣

施設長リレーエッセイ

「朝のリフレッシュタイム」

児童養護施設 漢水学園
園長

砂川 繁信

すながわ
しげのぶ



私はここ数年程、職場に出かける前の約一時間、自宅の西側に設けた約十坪程の家庭菜園で各種野菜の栽培や鉢植した花卉園芸の手入れ作業を毎日欠かさず行い楽しんでいます。今このようなことが楽しみになつてるのはなぜだろうか?と考えてみたところ、社会福祉事業団に採用され「あけぼの学園」勤務となつた際、最初の配属先が園芸班であつたことが影響していると思えます。

「あけぼの学園」で園芸班に所属していた当時は、毎年11月に開催される学園祭に合わせて利用者様と一緒に園芸活動をとおして育てた、小菊・ブーゲンビリア・観葉植物等の花卉園芸類や、大根、ニンジン、ニンニク、ネギ、チングン菜、ホウレン草等の野菜類をオーブン前から来園して下さった多くのお客さんに安価で販売し大変喜ばれることができ思い出されます。

さて、最近我が家家庭菜園では、台風の影響を受けることなくすくすく育った果樹用のパパイヤを取り、朝食後のデザートで美味しく頂きました。現在、ドラゴンフルーツも人工授粉が成功し、4個ほどが結実し収穫を待っています。他にも一年を通して季節の野菜を無農薬で栽培しており、これまでオクラ、大根、ナス、ピーマン、レタス、ネギ等各種野菜を栽培・収穫し美味しく食してきました。

ところで、植物を元気良く育てる秘訣は、毎日欠かさず見て觀察することです。観察することで、植物の状態が分かりります。元気がなければ、病気を疑い、虫が発生していないか、栄養不足になつていなか確認し原因を取り除いてあげます。灌水も天候に合わせ適度に行います。土づくりも大事で、定期的に鶴糞や堆肥、腐葉土等、有機肥料を土と混ぜ合わせています。努力の甲斐あり、今では無農薬でも病害虫に負けない丈夫で元気な野菜が栽培できるような土壤になりました。

このように植物の觀察と手入れ作業をしていると一時間があつという間に過ぎてしまいます。これが私の毎朝のリフレッシュタイムになっています。

日々食卓に載つた自家栽培の野菜を食しているお陰で、パワー全開で元気良く仕事に励むことができています。



表彰受賞者紹介

長きにわたり福祉の向上に取り組み貢献したことが評価され、その功績へ当法人職員が表彰を受けました。今後とも、利用者本位のサービスの質の向上と経営基盤の強化を図るとともに、広く地域に貢献し、地域の人々に信頼され愛される施設(法人)を目指す一員として各々の役割を担つて参ります。

全国社会福祉協議会会長表彰

《受賞者》 (30年以上勤務)

北嶺学園 介護員 横田 久夫
いしみね救護園 介護員 長浜 真辰

《受賞者》 (15年以上勤務)

沖縄療育園 看護師 沖縄療育園 看護師
沖縄療育園 看護師 沖縄療育園 看護師
高江洲なつ子 玉城みゆき

第六十四回沖縄県社会福祉大会長表彰

《受賞者》 (25年以上勤務)

沖縄療育園 看護師 下地 洋子ネウザ

《受賞者》 (30年以上勤務)

沖縄療育園 管理栄養士 浜田 幸子

《受賞者》 (30年以上勤務)

具志川厚生園 介護課長 宮里 紀子

《受賞者》 (30年以上勤務)

沖縄療育園 保育士 上里 育子

《受賞者》 (30年以上勤務)

具志川厚生園 介護課長 佐久田 政幸

《受賞者》 (30年以上勤務)

いしみね救護園 介護員 大城 亮子

《受賞者》 (30年以上勤務)

名護厚生園 介護課長 儀保 笑美

《受賞者》 (30年以上勤務)

名護厚生園 介護員

鉢嶺 ちか





職員の語らい

ファミリーキャンプ

北嶺學園 就労継続支援B型事業
職業指導員 きんじょう

金城篤史

涼しくなつた秋の陽気、快適に過ごせる沖縄のキャンプシーズン到来です。普段の生活ではあじわえない自然の森や海に囲まれた中で、ゆつたりした時間に火を囲んで食事をしたり子供達はマシュマロを焼いておいしく食べたりといろんな体験を子供達と一緒にできることはキャンプの醍醐味です。

から暇だと言われつちも、いざキャンプ場につくと、自分たちで小枝や葉っぱを探してはそれを武器に見立てて戦いっこをやる姿もほほえましく、末娘は男の子達に負けじと、一生懸命についていく様子や、お兄ちゃんは下の子に気を配りながらみんなで楽しく遊べるように、ルールを作つたりと子供の成長を感じられるひと時です。また、キャンプ場で出会つたお友達と一緒に遊んだりと自ら進んでコミュニケーションをとつたりと遊ぶのに良い環境だと常々感じます。

正直、お父さん(自分)はあれやこれやの大忙しで家族サービスに徹するのが精一杯ですが、それもまた楽しみだつたりと家族みんなでエンジョイしています。

雜貨屋のショーウィンドウにすつかりなじんで置き物と勘違いしてしまった猫ちゃんに癒され、かわいいなと目の合った番犬に声をかけて吠えられ、おいしそうな匂いがするところに引き寄せられ・・・。

今まで印象深いのが琉球王朝の時代に作られた道がそのまま残っていいる坂に思いがけず出会った時。萌えました。時間も忘れて見入つてしまいました。

長かったコロナ自粛も明け、お散歩がますます楽しくなつてきました。これからも素敵な発見と出会えますように。

あちこちをお散歩するのが趣味の私。いつも同じ道だと飽きるので、いろんな場所を歩きます。あつちで止まりこっちで止まり。なので運動になるかどうかはわかりませんが車だと通りすぎてしまう小さな路地などを歩いていろいろなものを発見する樂しさがあります。

いしみね救護園
なかむら あゆみ

A woman with short brown hair and a warm smile is positioned in front of a large glass window. The window displays a white wooden rocking horse and a small white chair. Above the chair, there is a sign with several social media icons: a blue square with a white 'i', a red square with a white 's' (likely for Instagram), a yellow square with a white 't' (likely for Twitter), and a blue square with a white 'f' (likely for Facebook). To the right of the window, a portion of a building with a yellow facade and a green roof is visible. The overall atmosphere is bright and cheerful.

他の試合は勝ちます。勝ち試合は楽しいです。

私は琉球ゴールデンキングスの応援の楽しみ方をご紹介したいと思います。

テレビでご覧になる方も多いと思いますが、沖縄アリーナに足を運んで観ることをお勧めします。実際にパワフルに動き回る選手を目の前にすると高揚も最高潮に達します。加えて5千人のキングスブースターが一つになつて選手のプレーに同時に反応するわけですから会場の盛り上がりは大爆発の連続です。先日、6年生の息子と観戦に行きましたが、子どもも大喜びでした。観客の年齢層は子どもからお年寄りまで幅広いです。極端な話、バスケットのルールを知らない人も会場の雰囲気だけで楽しめます。キングスはBリーグの中でも強いです。毎年優勝争いに加わるくらいの実力があるのでシーズンを通して大

沖縄アリーアイ

岡崎
圭介

一生モノの趣味

宮古厚生園 居宅介護支援事業所
介護支援専門員

伊藤修敬

入職後は、季節ごとの園内行事での撮影や、今年の敬老週間では米寿やカジマヤー、新百寿の方の撮影を行なう等、趣味を活かした協力を行っています。これからも心惹かれる写真を撮影していきたいと思います。

子供の成長を綺麗な写真に残したいと10年前に一眼レフカメラを購入したのがきっかけです。始めの数年は子供の行事や旅行での撮影でしたが、7年前に知り合った方から「せっかく上等なカメラを持つているなら、毎日持ち歩くほうがいい」と言われたことをきっかけに、今ではどこに行くにもカメラを持ち出かけるようにしています。空・海・星・鳥・草花と自分が心惹かれるものや子供の行事を撮影します。

A composite image. The left portion shows a portrait of a middle-aged man with dark hair and glasses, wearing a brown jacket over a white shirt. The right portion is a scenic landscape of a coastal area, showing green fields, a body of water, and distant hills under a clear blue sky.